

2015 年度（対象年度：2014） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 10	内部質保証
-------	-------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
1001	大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしていますか。	①年度ごとに自己点検・評価を行い、その結果を社会に公表していますか。【※どのように】	A	A
1002	内部質保証に関するシステムを整備していますか。	②自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムを整備していますか。【※どのように】	B	B
		③独自の外部評価を実施し、学外者の評価を自己点検・評価に取り入れていますか。	B	
1003	内部質保証システムを適切に機能させていますか。	④自己点検・評価データベースは有効に活用されていますか。【※どのように】	C	B
		⑤教員活動自己点検システムは有効に活用されていますか。【※どのように】	A	
		⑥文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項について適切な改善を行っていますか。【※どのように】	A	
		⑦自己点検・評価の実施により各組織の改善が進んでいますか。【※どのように】	B	
		⑧評価を改善に繋げる主体的な評価文化の醸成を図っていますか。	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。
1001 自己点検・評価の実施とその結果公表は、学校教育法第109条に規定・義務化されている。本学においては、内部質保証の方針である「龍谷大学内部質保証のあり方について」（2010年度第44回部局長会<2011年3月24日開催>）を定め、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という2つの視点から大学の質を自ら保証（内部質保証）することとし、「自己点検・評価制度」と「教員活動自己点検」を2011年度から毎年度実施している。結果公表については、「大学評価に係る公表の方針」（2012年度第43回部局長会<2013年3月21日開催>）において公表の基本姿勢、範囲、方法を定め、これに基づき、2014年度は、①全学的な対応として「自己点検・評価シート」のうち、「大学全体の視点」シート（評価結果含む）を本学webサイト上（内部質保証ページ）に公表する。②全学的な対応として、「自己点検・評価 全学的課題事項について」を本学webサイト上（内部質保証ページ）に公表する。③法科大学院個別の対応として、法科大学院及び法科大学院教務課の「自己点検・評価シート」（評価結果含む）を、法科大学院webサイト上に公表する。こととした（2014年度第1回全学大学評価会議<2014年4月24日開催>）。なお、各組織の自己点検・評価シートは現段階では公表対象とはせず、まずは、評価文化の醸成や改善に繋がる評価の実現を目指すこととしている。以上から、年度ごとに自己点検・評価を実施し、その結果を適切に社会に公表していると評価する。

1002 本学における内部質保証システムとして、自己点検・評価制度を導入し、全ての学部・研究科、教養教育、学部共通コース、短期大学部に自己点検・評価委員会を設置している。加えて、単一組織では取り組むことが難しい「全学的課題」を抽出し、部局長会が主体となって改善に取り組む仕組みを整備している。また、教員活動自己点検を導入し、教員個人の活用のほか、学部・研究科や学部横断的な組織（教養教育、学部共通コース）での活用も視野に入れ、運用している。以上から、評価を改善に繋げる仕組みを概ね整備していると評価する。なお、前年度課題として掲げた大学評価に関する規程・細則については、改正・廃止を予定どおり行った。

外部評価については、法人として、毎年度、株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付評価を受け、各組織においては、アドバイザーボード（経済学部）やJABEE（理工学部）など、学外者の評価を取り入れる取り組みがなされている。また、継続課題としてきた自己点検・評価制度と関連した外部評価については、大学評価に関する規程の改正に係る審議の中で、様々なレベルにおいて学外の評価や意見を取り入れる仕組みを充実させていくことを確認した（2014年度第3回全学大学評価会議<2015年1月8日開催>）。以上から、外部評価を様々なレベルで実施し、学外者の評価を自己点検・評価に取り入れていると評価する。

1003 自己点検・評価シート及び根拠資料を格納し、各組織が学内LANを介して自由に閲覧できる「自己点検・評価データベース」の運用を2013年5月から開始した。本データベースの活用推進に向け、新たに閲覧専用のID等を配付し、教育職員も利用しやすい環境を整えたが、アクセス履歴管理システムを構築し、利用実績を確認したところ、一部の組織における利用に止まっていることが判明した。この実態を踏まえ、自己点検・評価DBの一部改良について、大学評価支援室において検討を行った。以上から、利用環境は整備できているが、活用は現段階では十分にはなされていないと評価する。

教員活動自己点検の入力負担を軽減し、Webシラバスや研究者DBとリンクさせた利便性の高いシステムとして「教員活動自己点検システム」の運用を2012年度期末入力から開始している。学内の役職、諸委員やREC講座講師等の情報が自動で表示される機能を整備し、各教員や教務課の負担軽減、効率化を図っている。2014年度のシステムの入力率は、100%（2013年度は95.8%）であり、適切に活用されていると評価する。

※教員活動自己点検については、基準3のシートで点検・評価する。

文部科学省の設置計画履行状況等調査における指摘事項については、2014年度は留意事項が付されなかった。認証評価において認証評価機関（大学基準協会）から受けた改善指摘については、当該組織が目標を定めて計画的に「努力課題」に関する改善を進め、その進捗状況を毎年度把握し公表するとともに、協会への改善報告書提出へと繋げるため、改善計画及び改善状況報告書を作成し、その改善状況を全学大学評価会議において毎年度確認することとした（2014年度第1回全学大学評価会議<2014年4月24日開催>）。また、2014年度の法科大学院認証評価受審に際しては、前回認証評価において受けた改善指摘に係る改善の進捗状況も含め報告書を作成し、実地調査を受けた。その結果、前回認証評価から継続する改善指摘はなされなかった。以上から、文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項について適切な改善を行っているとは評価する。

自己点検・評価の実質化については、点検・評価を行うボリュームや質、評価項目の適切性など、制度の継続性を見据えた本学独自の評価システム構築が課題であり、継続して取り組んでいる。2012年度における実施スケジュールの見直し、2013年度における点検・評価項目の精査に引き続き、2014年度の学部・研究科、教養教育、学部共通コースのシートについては、基準ごとに趣旨やポイントを記載するよう改善を加えた。

4年間の制度実施を経て、①自己点検・評価の意義の理解促進、②自己点検・評価シートの有効活用、③継続的な改善活動の推進といった成果が確認できる一方で、①自己点検・評価活動の形骸化、②組織内の情報共有の不足といった課題も明らかになっている。第3期認証評価の方向性も視野に入れつつ、点検・評価を行うボリュームや質、評価項目の適切性など、制度の継続性を見据え、本学に適した点検・評価システムへのさらなる改善に向け、引き続き検討していく必要があると認識している。そのため、2014年度においては、前年度課題とされた評価の質向上に向け、2015年度実務者説明会を企画した。また、課題改善の進捗状況について組織間で共有できるよう可視化する方策を検討し、継続課題としている。以上から、自己点検・評価を改善に繋げる評価文化が、少しずつ確実に醸成されつつあると評価する。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

- ・各組織の自己点検・評価、大学評価委員会委員による評価の質向上。
- ・各組織の評価疲れや形骸化に対する危機解消についての施策。
- ・大学評価に関する規程・細則について、規程と実態に齟齬があるため、2014年度に改正を行う。
- ・評価を改善に繋げる、実質的で本学に適した外部評価のあり方を引き続き検討する。

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
・内部質保証の2制度（自己点検・評価、教員活動自己点検）は、毎年度、全学大学評価会議において総括を行い、シート改訂など必要な改善を行うことにより効果を創出できている。今後も毎年度の総括を継続し、改善を進めていく。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・各組織の自己点検・評価及び大学評価委員会委員による評価の質。自己点検・評価シートの改訂や実務者説明会の実施等を通して継続的に改善を図る。
・組織内の情報共有の不足。課題改善を実感できるよう、その進捗状況について可視化する方策を2015年度中に検討する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
1001	龍谷大学内部質保証のあり方について
1001	大学評価に係る公表の方針
1001	2014年度 自己点検・評価の結果公表について（2014年度第1回全学大学評価会議承認）
1002	大学評価に関する規程
1002	大学評価の組織体制等について（2014年度第3回全学大学評価会議承認）
1002・1003	2014年度自己点検・評価に関する総括について（2014年度第2回全学大学評価会議承認）
1002・1003	2014年度自己点検・評価 評価結果（委員会案）に係る各組織との説明・意見交換の実施結果について

II. 評価結果

総評		
評価項目 1001 について、概ね項目に沿って適切に対応できていると評価する。今後は、各組織の自己点検・評価シートも早期に公表できるよう検討頂きたい。 評価項目 1002 について、自己点検・評価の結果、規程・細則の改正・廃止を行い改善を行っている。現状説明でも「自己点検・評価の実質化について、点検・評価を行うボリュームや質、評価項目の適切性など、制度の継続性を見据えた本学独自の評価システム構築が課題であり、継続して取り組んでいる」と記載されている。今後に期待する。 評価項目 1003 について、「自己点検・評価データベース」の利用環境は整備されているが、活用は十分にされていないと評価している。早急な対応を検討頂きたい。また、前年度課題（留意点）となった、評価の質向上に向け、実務者説明会（2015 年度評価）を企画したことは評価できる。今後も継続し、評価の質向上に努めて頂きたい。		
伸長すべき点（長所）	《箇条書き》	
前年度課題（留意点）となった、評価の質向上に向け、実務者説明会（2015 年度評価）を企画したことは評価できる。今後も引き続き質向上に向けた施策を検討頂きたい。		
改善すべき点	《箇条書き》	* 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
自己点検・評価データベースは、一部の組織における利用に止まっていると記載されている。本データベースの一部改良など工夫は見られるが、更なる検討を重ね有効活用できる仕組みを構築されたい。【留意点】		
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要		

III. 大学基準協会からの助言について

助言内容
【認証評価結果 長所】 1) 各組織の自己点検・評価の結果を、「全学大学評価会議」が学内第三者的な立場で評価し、その結果を各組織が組織的に改善に役立てていることは評価できる。また、内部質保証システムを確立すべく、法務課の設置や外部評価の積極的な活用を図り、貴大学における諸活動の改善につなげていることは評価できる。